



地域医療の崩壊、 医師不足に思う —意識改革・法的整備の必要性—

空知医師会
全国自治体病院協議会副会長・北海道支部長
砂川市立病院 院長

小 熊 豊

へき地中核自治体病院を預かる者として、思うところを記してみました。関係者の方には不快を与えるかも知れませんが、お許し下さい。

I. 国の医療政策について

経済不況、少子高齢化、長寿社会が続く中で、社会保障費が突出、国民皆保険制度の存続が危惧されています。医師等の数は漸増しているのに、地域の医師不足は一向に改善しません。また、消費税（損税）や診療報酬問題、医療安全対策等々、医療を揺るがす問題が山積しています。

私は現状を打破するには、①国民に無益な医療はしない(特に終末期医療)、②医療は万能ではない、③医療には経費がかかることを周知し、④外来、在宅医療は診療所、開業医を主体とすること、⑤病院は専門的、総合的入院機能、救急対応にあたること、⑥医療基本法を確立し、⑦専門医制度の改革、⑧地域の診療科別必要医師数等の把握、⑨医師の法的配置や規制、⑩そのための抜本的体制と経済的基盤作りが必要と考えています。医師は法的規則に従って一定条件下で地域勤務を行うべきと思いますし、それを否定する者に医師になる資格はありません。

また、地域に必要な医療の質と量を割り出し、効率的な医療を実践することが肝要で、国民の啓発、診療報酬制度を含めた新たな体制、法の整備などが必要不可欠と考えます。政府、政党、官僚達は、従来の無責任な地方への丸投げを止め、国策としての医療制度改革に粉骨砕身すべきと考えます。

II. 道、市町村に対して

道や市町村は、厳しい財政状況のもと権限もなく懸命に地域医療を守ろうと努力していると思いますが、発想の転換が必要です(特に市町村)。医療は一村一品運動ではありません。地域に必要な医療を、いかに効率的に提供するかが問題であり、医療圏内外での広域化連携、重点化と個別化の観点が必要です。地域の医療需要をレセプト情報などで把握し、医師の配置に対する立法化、権限付加、財源確保を国に要求、高齢者に配慮した交通体系や、派遣調整機能を有する新しいシステムを導入すべきと考えます。

道が行った研修医へのアンケートでは、一定条件下での地域派遣は多くの研修医が容認しています。総合医の育成、地域枠の活用、自治医大卒業生の支援体制も重要な課題で、これらの条件、課題をクリアする態勢を早急に整備して欲しいと思います。

III. 大学の使命と研修

新医師臨床研修制度の導入以来、大学への入局者が減少し、医師派遣機能が低下、地域医療崩壊の要因の一つと言われています。しかし研修医は、医師としての第一歩を歩み始め、一生にかかわる方向性を見出す時期に、何故大学での研修を敬遠するのでしょうか。私は大学の縦割り制度、日常的症例の少なさ、プライマリ・ケアの要因不足が原因と考えています。医師としての方向性や専門性を決めかねている大多数の研修医達には、決心が付かないのではないかと思います。

この時期の研修は市中病院、専門的方向性を見出した者から大学での研修開始と考えても良いのかも知れません。そして、研究的マインドを有する者が大学に残り切磋琢磨、日常臨床を目指す者は、公的派遣機関に所属、地域医療にあたるのも方法かも知れません。

IV. 診療所開業医師、医師会について

私は田舎の開業医の家に生まれ、24時間365日、町民の診療に携わる両親をみて育ちました。今は国民の専門医志向、大病院志向が進み、その分開業医の比重が軽くなっている気がします。われわれ勤務医としては、何故近くの開業の先生を受診しないのか、疑問が少なくありません。

プライマリ・ケア(一次医療)、療養・介護・在宅医療(地域包括ケア)、住民一人ひとりに密着したホームドクターの役割、これらは勤務医が開業医に望む役割です。医師会は開業医を中心とする医療政策団体ですが、会員相互間、病院との連携などを通じて、こうした領域での体制作りにも強く貢献して欲しいと願っています。

さらに申しますと、誰もが簡単に開業医になれる現状を改め、それなりの資格、基準に適合した医師のみ開業できるようにすべきと思います。開業医として地域医療に果すべき責務は大きいと考えるからです。

V. 病院勤務医について

病院勤務医は、診療科特有の、あるいは所属する病院の地域的、医療的立場によってさまざまな負担が生じます。最近は勤務医の処遇を改善する方法が検討されていますが、何と言っても重要なのは、業務量に応じた医師数と、モチベーション、キャリアアップの保たれる環境だと思っています。専門性が進んだ今日の医療では、全ての病院にフルに医師を配置することは不可能で、重点化と連携構想が不可欠です。

幸いに総合医、地域枠医師の養成が開始され、地域医療のあり方が変わる兆しが芽生えています。住民の身勝手な要求も少しずつ変わりつつありますが、医療の崩壊は地域の崩壊に繋がります。地域全体で効率的、効果的医療を目指す姿勢が必要です。自治体病院では、年功序列主義、定年制の再検討が必須で、誰もが納得できる医療体制作りが急がれています。